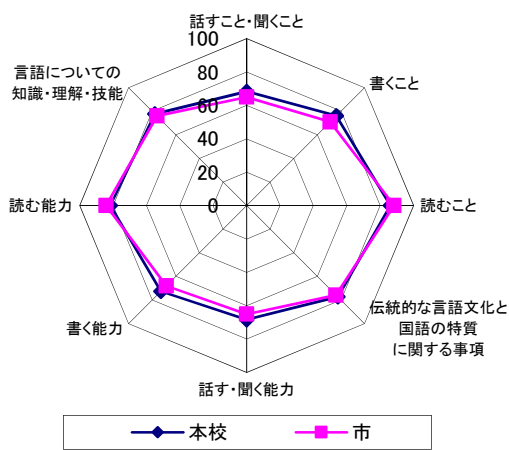


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.3	65.0	62.9
	書くこと	76.1	70.9	71.3
	読むこと	86.1	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.3	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	68.3	65.0	62.9
	書く能力	72.6	68.0	68.0
	読む能力	81.7	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	77.7	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

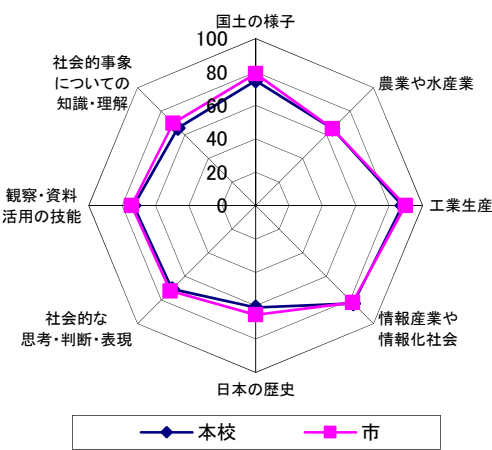
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市よりも高い。 ○話し手の意図を考えながら、話合いの内容を聞きとめることはできており、4月の全国学力調査と比べて高くなってきている。 ●司会者の役割を理解して話合いにふさわしい言い方を考え、記述する問題での正答率が低い。話し合いに沿った適切な言い方を表現できるようにすることが課題である。	・授業の中で、グループ活動を取り入れ、学び合いや話合いの機会を意図的に作る。話合いのルールや形式を理解させ実践できるようにするために、司会の役割を確認したり、誰もが司会を経験したりするなどして、スムーズに話合いに取り組めるようにする。
書くこと	平均正答率は、市よりも高い。 ○指定された長さや、段落数、内容で課題に即した文章を書くことができた。4月の全国学力調査と比べても正答率が上がっている。 ●資料を読み取り、文章に適切に書き表す問題での正答率が市よりも低い。資料の内容を理解して、適切に書くことができるようにしていく必要がある。	・今年度取り組んできた、視写やミニ作文などを継続する。また与えられたテーマについて書いたり、相手や目的など指示された条件で書いたりするなどの活動を取り入れる。書くことの学習活動では、自分の考えを効果的に伝えられるような文章構成や言葉の使い方、表現力の工夫をさせる。
読むこと	平均正答率は、市よりも低い。 ○説明文の内容を的確に読み取る問題については、市と比べほぼ同じくらいである。 ●物語文の読み取りでは、登場人物の心情を読み取る問題の正答率が市よりも低かった。	・国語の「読むこと」の単元においては、叙述に即して人物同士の関係を捉えたり心情の変化を読み取ったりする学習を丁寧に行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市よりも高い。 ○漢字の読みや熟語の構成を答える問題の正答率は高い。 ●漢字の書きや文章の構成を答える問題の正答率は低いので、6年生で学習した漢字だけでなく、5年生の漢字の読み書きを復習する必要がある。	・漢字の読み書きについては、6年生だけでなく5年生までの漢字についても折に触れて練習をさせたり、ミニテストなどを行ったりして、復習を継続していく。 ・主語、述語などの文章の構成についても、日々の学習の中で意識的に取り入れ、理解ができるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	74.9	79.1	74.9
	農業や水産業	65.2	65.1	63.7
	工業生産	87.9	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	82.9	82.2	73.1
	日本の歴史	61.0	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.7	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	73.1	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	65.7	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

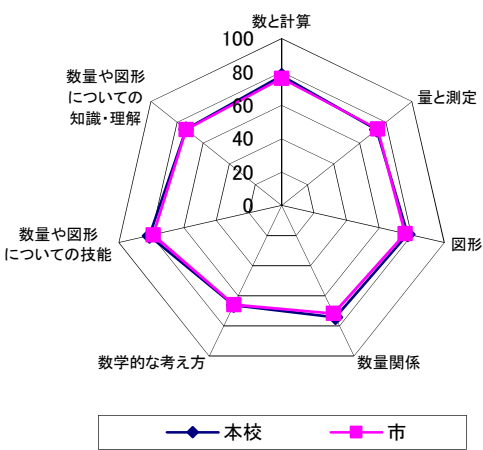
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市よりも低い。 ○わたしたちの生活と環境について資料を読み取って考える問題の正答率が高かった。 ●日本周辺の海洋名や主な国の位置や名称に関する問題の正答率が低い。	・5年生の学習である国土の位置や周辺の様子について、関連のある内容を扱う際には、繰り返し触れることによって知識の定着を図る。 ・外国語活動で学習した国や、ニュースで見聞きた地名や国名について、日頃から地図帳を活用して調べる活動を取り入れ、日本の周辺の海洋や国々を意識させる。
農業や水産業	平均正答率は、市よりも低い。 ○日本の米作りに関する問題点や食料自給率などについて資料を読み取って考える問題の正答率は、市よりも高かった。 ●米作りの作業工程を答える問題での正答率が低かった。	・提示された複数の資料について、それぞれどんなことを示しているのか、関連することは何か、どのような問題点が明らかになるかなど、具体的に観点を示しながら読み取る活動を行なっていく。 ・日本の米作りの盛んな地域や作業工程などについて復習をする。
工業生産	平均正答率は、市よりも低い。 ●消費者の多様な需要に合わせた製品を生産するための工夫や努力について資料を読み取り、考える問題での正答率が低かった。	・学習の中で扱った語句がもつ意味やその目的については、授業の中で明確にし、確実に理解させる。 ・提示された複数の資料について、それぞれどんなことを示しているのか、関連することは何か、どのような問題点が明らかになるかなど、具体的に観点を示しながら読み取る活動を行ない表現できるようにする。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市よりやや高かった。 ○マスメディアの種類を問う問題の正答率が高かった。 ●情報ネットワークの利便性について資料を読み取り、考える問題での正答率が低かった。	・情報ネットワークなど児童にとって身近ではない事象については、具体的な事例を示すなどして理解をさせていく。
日本の歴史	平均正答率は、市よりも低い。 ○安土・桃山時代や江戸時代の鎖国や、文化について答える問題の正答率が高かった。 ●鎌倉・室町時代の元寇や文化に関する問題の正答率が低かった。	・各時代ごとの主なできごとや文化の特徴について、年表を活用したり、特徴的なエピソードからノートにまとめたりして、理解を深めさせる。 ・歴史的事象の名称の理解にとどまらず、前後のできごととの関連や事象から分かる事柄についても考えさせる活動を行なう。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.7	76.2	72.9
	量と測定	72.9	73.6	70.6
	図形	77.5	76.0	72.1
	数量関係	74.3	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	66.1	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	81.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	73.2	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

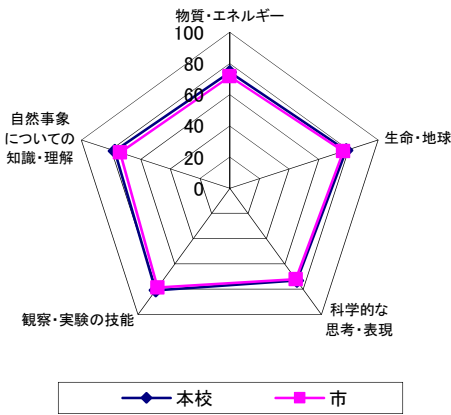
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○小数の計算、分母どうしをかける通分、図を使った小数の除法の文章問題では、市の平均を上回っている。 ●奇数と偶数の分類、分数の除法、問題の場面を理解し説明する問題では、正答率が低い。また、わずかであるが、分数の乗法と除法の計算の仕方を混同して回答しているため、混同しないで答えることができるようにするのが課題と考える。	・基礎的、基本的な計算の定着に向けて、反復練習を継続し、定着を図る。また、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・数量や場面を図や数直線で表す活動を取り入れ、説明したり、言葉で表す力を育む。
量と測定	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○平均、三角形の底辺と高さの読み取り、直径が分かっている円の面積の問題では、正答率が8割を上回っている。 ●1㎡あたりの人数を求める式の問題、直方体を組み合わせた形の体積、速さを比較し理由を説明する問題では、正答率が低い。問題の意味の理解や数量の関係から立式できるようにするのが課題と考えられる。	・体積や円の面積の求め方については、公式を確認し基本的な問題に取り組みさせる。複合図形の問題も扱うこととし、数学的な思考を伴う問題に取り組みさせる。 ・速さに関する単位の関係を確認し、さらなる定着を図る。
図形	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題は正答率が高い。 ●正六角形の作図方法から、正三角形1つの内角の大きさと、正六角形の1つの内角の大きさを求める問題の正答率が低い。線対称な図形の問題の正答率は市よりも上回っているが、図形の対称性に気付いていない回答も見られる。	・対称な図形では、線対称と点対称な図形の性質や対応する頂点や辺などを再確認し、繰り返し練習し、定着を図る。 ・多角形の内角の大きさを求める問題や作図の問題については、類似問題を繰り返し行うようにする。
数量関係	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○文字の式、比例・反比例、割合と比の問題では、正答率が高い。特に、XとYを使った式に表す問題では、9割の正答率であった。 ●帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題の正答率は6割程度であり、低い。また、割合と比の問題は、市の平均をわずかに上回ったが、割合で考えずに差で考えて回答している傾向が見られた。	・文字の式では、2つの数量の関係を文字の式に表したり、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題に取り組み、さらなる定着を図る。 ・割合と比の問題では、数量の関係を図や数直線に表したりして考える活動を通し定着を図るとともに、思考力の向上も図るようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.4	71.6	67.4
	生命・地球	78.4	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	73.1	72.1	68.8
	観察・実験の技能	80.8	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	77.6	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○ふりこのきまり、水溶液性質については市の平均を大きく上回っている。 ○物のとけ方では、ミョウバンの水溶液の重さを求め方をよく理解していた。 ●水溶液の性質では、水溶液を熱すると固体が残ったことから、どの水溶液であるかを推測する力が市の平均を大きく下回り、理解が不十分である。 ●電流のはたらきでは、電磁石のはたらきの関係を調べるためには、どの実験を比較すればよいか指摘する問題の正答率が低い。	・課題に対する予想の根拠を明確にさせたり、実験結果を考察し課題に立ち返らせたりすることで、思考力や判断力を育てるようにする。 ・学習内容と日常の事象との関連について意図的に触れ、理解が深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○動物のからだのつくりとはたらきについては市の平均を大きく上回っている。 ○月と太陽では、月と太陽の位置関係や満ち欠けの周期をよく理解している。 ●生物と環境では、どの問題も市の平均を下回り、特に生き物どうしの「食べる」、「食べられる」の関係や生き物と空気の関わりの理解が不十分である。 ●だ液のはたらきを調べる実験の条件を修正する問題では、正答率が50%程度であり、だ液の性質についての理解が不十分である。	・生物についての関心が高いのだが、生物と環境の関わりや体のつくりやはたらきなどの理解が不十分である。身近な事象との関連を意識できるように支援や助言を意図的に行う。 ・課題提示の仕方を工夫することで、観察したことや実験した結果からどんなことが分かるかを関連付けて考察できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	朝の学習の時間を活用し、基礎基本の確実な定着を目指している。月曜日は国語、水曜日は算数と教科を決め、学年で内容をそろえて取り組んでいる。水曜日の算数は、担任をもっていない教員も個別指導を行い、学力向上を図っている。	6年生は、国語の「言語についての知識・理解・技能」と算数の「数量や図形についての知識・理解」「数量や図形についての技能」とともに市の平均を上回った。しかし、国語の「読む能力」については、市の平均を下回っている。
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布したりして、学年に応じて設定した目標時間取り組んで、課題を提出するよう指導している。	1～2年生は、「宿題はきちんとやっていますか」に肯定的に回答した児童の割合は93%以上である。3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は85%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は54%～73%と、学年によってばらつきが見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- ・4～5年生の国語と算数では、国・県・市の調査ともに、平均の学力に達していない児童が多いことがわかった。次年度も「朝の学習」を継続し、基礎的・基本的な学力を定着させていきたい。さらに、読解力を向上させるために、文章を正しく読み取らせたり、自分の考えをもたせたりする学習活動を工夫し、だれもが「わかる」「できる」楽しい授業づくりに努めたい。
- ・国・市の調査ともに「家で宿題をしている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は85%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、学年によってばらつきが見られる。次年度は、児童が進んで自主学習に取り組めるよう、学習意欲を育てる授業展開と家庭学習の課題の工夫に努める。